



# リーダーシップ

命令だけではダメ  
部下を動かす環境を作れ

必読の3冊



**「ビジナリーカンパニー」**  
ジェームズ・C・コリンズ／ジェリー・I・ポラス著、山岡洋一訳  
日経BP出版センター／2039円  
米国企業18社の歴史を研究した本書によると、継続的に成長を続ける会社は「ビジョン」を意思決定の基準に据え、行動は社員一人ひとりの主体性に委ねていることが分かる。ビジョン（組織を導く理念）はリーダーシップの本質である。その重要性をしっかり学び取りたい。



**「人を動かす 新装版」**  
デール・カーネギー著、山口博訳  
創元社／1575円  
どのような態度や振る舞いが相手の心に響き、結果として相手を動かすか、具体的事例とともに書かれている。1人を動かすことは、チームを動かすための第一歩。リーダーシップの根幹となるものだ。また、攻撃的態度で接しても人は動かない、相手が間違っていると云いたくなる誘惑に耐え重要感を高めることが大切、などが学べる。



**「リーダーシップ・チャレンジ」**  
ジェームズ・M・クーゼスほか著、金井壽宏ほか訳  
海と月社／2940円  
リーダーシップの全体系を、ジョン・P・コッター「起業変革力」よりも分かりやすく各論で示したのが本書。部下と人間関係を築くことが重要、と解いてあるように、現場リーダー的なミクロの視点からのノウハウが豊富に書かれている。初めて部下を持って悩んでいる、そんな人にお薦め。

補強のための6冊



**「仕事は楽しいかね？」**  
デイル・ドーテン著、野津智子訳  
きこ書房／1365円  
ビジョンや戦略を描くヒントが盛りだくさん。コカ・コーラやジーンズなどを例に取りながら、気軽に数多くチャレンジすることの大切さを教えてくれる。小説風で楽しく読める。



**「チェンジ・リーダーの条件」**  
P・F・ドラッカー著、上田博生訳  
ダイヤモンド社／1890円  
ドラッカーの名著からエッセンスを抜き出して編纂。変化の時代に組織を率いる上での神髄が書かれている。基となった「抄訳マネジメント」「現代の経営」も読んでほしい。



**「企業変革力」**  
ジョン・P・コッター著、梅津祐良訳  
日経BP社／2100円  
組織に変革をもたらすための方法を、8つのステップで解説。経営者の視点で書かれたリーダーシップ論の定番の名著。同著者の「リーダーシップ論」とともにぜひ一読したい。



**「33歳からのリーダーのルール」**  
小倉 広著  
明日香出版社／1470円  
新米リーダー向けに100のルールを解説。著者が体験した失敗のエピソードを交え、「誰もが陥りがちな間違い」「そこでどうすべきだったか」を具体的に分かりやすく説いている。



**「働く幸せ」**  
大山泰弘著  
WAVE出版／1470円  
障害者雇用率7割でなおかつ黒字経営を続ける会社の物語。障害者に愛情をかけ、やりがいを持って仕事に挑めるよう導く大山会長の姿勢はリーダーシップのお手本そのもの。



**「論語に学ぶ」**  
安岡正篤著  
PHP文庫／650円  
実は「論語」ほどリーダーシップの本質を言い当てている書もない。「人を動かすには、人を引きつけるだけの徳を持たなければならない」など、今の社会でもそのまま役に立つ。



小倉 広 さん  
**Hiroshi Ogura**  
フェイスホールディングス  
代表取締役社長  
リーダーシップ開発と理念浸透に特化したコンサルティング会社を経営。近著に「課長のスキル」「33歳からのルール」。メルマガ配信中。http://www.faiht-h.net/ma

**「新」** 米リーダーは、ついつい部下に命令して動かそうとしてしまいがち。しかし、それだけでは部下は動きません」と語るのはフェイスホールディングス社長で、リーダーシップに関する著作も多い小倉広さん。「命令するのではなく、部下が自発的に動きたくなるような環境を作るのがリーダーの仕事。そこを間違えている人は多い」。そんなリーダーシップの基本が「人を動かす」には記されている。定番の名著だが、誰もがまず読むべき一冊である。

組織変革が必要だと考えるリーダーは「リーダーシップ・チャレンジ」そして「企業変革力」と読み進めると良い。そして、変革の時こそ部下を鼓舞するような、明確なビジョンが不可欠。そんな企業理念の重要性を説いた名著「ビジョナリーカンパニー」も外せない。